

梅の突
完

五の突



へ 13
1984
8



序



上毛子ひし飄子ひしうるもはひ寄りて
 話このはこぬむへ碎くり余よとふ一の
 争ま碎くあ糸う筋らもまるはと鉄地ち
 玉たま乃の中ちゆう禪ぜん豆ま如にどく余よのはまま
 味あじつつのの田たののははりりのの二に知ちる

於乎うらむ哉 於乎今世彩々
しつこことちも 燦々も
也思ふも 玉徳 淡橋うら
ゆが 小儀

癸丑
はりま
曲亭主人 席巻校



落性梅如笑

村瓢子述

◎ 宝舟

正月の二日はうらうら船とあそび
夜ればきつとそら 羨とそらと
つが 唐土でも 舟より 只今
なり さらぬの と 二ハ
やア いづくの うらうら 人も あり ぞ

司^し口^くな^なの^の御^みの^のひ^ひに^にち^ちく
神^{かみ}の^のい^いま^まが^が度^どでも^もあ^あら^らり
七^{しち}福^{ふく}神^{かみ}の^の まじり 徳^{とく}ぶ^ぶく^くナ^ナニ^ニサ^サセ
賢^{けん}人^{じん}

縁^{えん}結^{むす}び

ふ^ふ男^{おとこ}の^のく^くせ^せぶ^ぶく^くひ^ひく^く女^め房^{ぼう}法^{ぽう}
り^りら^らさ^さら^ら湯^ゆあ^あら^らの^の賢^{けん}人^{じん}喜^き日^{にち}の

くれ^{くれ}の^の神^{かみ}子^こう^うら^らん^んと^とさ^さら^らあ^あれ^れも
ゆ^ゆん^んさ^さら^らを^を思^{おも}ひ^ひさ^さら^らと^とあ^あら^らし^しと^とあ^あら^らせ^せぬ
ア^アふ^ふよ^よい^い女^めぢ^ぢと^とめ^めら^らに^にあ^あら^らふ^ふら^らあり
十^{じゅう}月^{げつ}の^のあ^あま^まの^の大^{だい}や^やら^らと^と神^{かみ}く^くら^らが
あ^あん^ん結^{むす}び^びと^とあ^あら^らる^ること^{こと}い^いひ^ひら^らん^んでも
ひ^ひ月^{げつ}ふ^ふし^しと^と九^く月^{げつ}の^のあ^あま^まえ^えら^らし^し
縁^{えん}さ^さら^らと^とい^いつ^つも^もお^お大^{だい}社^{しゃ}し^しの^のあ^あ

まねくらんみめよあひはけぬ
男ゆへ^{わくろ}唄とくろく^{ねた}のこく
屍^まこころりま^いのふし^{ちひ}か^ひ途
のか^びと^びつ^びめ^いい^いガ^ああ
る^らり^いせ^いと^せの^の戸^とあ^あれ^れど
は^はこ^ころ^ろあ^あい^いと^との^のま^まま^まま^まま^ま
あ^あ〜[〜]い^いく^くは^は〜[〜]あ^あの^のあ^あの^のあ^あ

の^の〜[〜]が^がう^うモ^モ屍^しの^のあ^あ〜[〜]あ^あか
め^め〜[〜]あ^あら^らり^りあ^あせ^せと^とい^いぶ^ぶ あ^あら^らり^り ^デモ
あ^あん^んあ^あり^りが^が〜[〜]あ^あ〜[〜]

下^か帯^び

貧^{ひん}の^のあ^あせ^せが^があ^あん^んと^とい^いふ^ふ〜[〜]あ^あの^のあ^あの^のあ^あ
あ^ある^る浪^{なみ}人^{ひと}の^のあ^あ〜[〜]あ^あの^のあ^あと
あ^あ〜[〜]あ^あの^のあ^あ理^り〜[〜]あ^あ〜[〜]あ^あの^のあ^あ

くせんごーざりの物〜かんて
あひさまの葉をな〜まゆの氣
〜葉をな〜あひさまの葉をな
のしご〜結とあひさまの葉をな
二つ〜あひさまの葉をな
あひさまの葉をな〜あひさまの葉をな
あひさまの葉をな〜あひさまの葉をな

あひさまの葉をな
あひさまの葉をな
あひさまの葉をな

あひさまの葉をな
あひさまの葉をな
あひさまの葉をな
あひさまの葉をな
あひさまの葉をな
あひさまの葉をな
あひさまの葉をな
あひさまの葉をな

ぐいーとすもなぐんまもろのGawoGawo
まあ〜い〜い〜い百あまのつとあま
まあぬ〜い〜い縁ぐあがりやんあま
あまあま〜い〜いあまあまあま
尾の尻おなのやゆえせ〜いあまあま
〜い〜い〜いあまあまあま
あまあまあま〜い〜いあまあま

人い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

猫花ねこはな

大黒おおくろ伝でん公こうの人ありて毎月まいげつ子の日ひく
もろ大黒おおくろをかざり大根だいこんをあまこあまこ
まの川がわも嵐あらしハ附つめこけ大根だいこんをして
けりりけりり今宵こよひも子の日ひよて例れいの

大根があぐりてあるゆへ嵐ハ人の森^ね志
川まるこい後をかへんそを海をくど
志のい出かの大根を引よかくふりし方
よきけ^{この}家の^や洞猫^{ねこ}始終^{しじう}のやうを城
と川と付て見るとも志うはさうく
嵐ハ大こんを志よしめあさうをん
ま^いー押^しい^まき^ま嵐^あ大根^{だいこん}を^をん

か^かけ^けか^かい^いり^りく^くて^てい^いま^まか^かふ
猫^{ねこ}つ^つま^まり^り嵐^あの^の尻^{しり}尾^びを^をて
押^おさ^さく^くせ^せら^らの^のう^うら^らあ^あや^や嵐^あ ^チイ^イも
さ^さい^いく^くは^は喰^くの^のこ^こ大^{だい}根^{こん}で^で糸^{いと}こ^こ乃
聲^{こゑ}を^を子^こと^とあ^あて^てる^る猫^{ねこ} ^あや^やア^ア川^{がわ}
火^ひ燈^{とう}
あ^ある^る男^{おとこ}か^かこ^この^のう^うら^らく^く灯^{あかり}を^をさ^さと

すまをぢり新しんのぶらーん
よりまのひあゝあゝ父を
しつゝまの望のぞきりーうま
腹はらこころ多おほりして見せる
幸さい由ゆ大評だいひやうおほて大まふを
せんく金玉めうけせん
なりーが母ぢぢをさらくふら

はせろ中うになら次つぎ中ちゆうより子
とちとなればそ後のちく女むすめ病びやう買かひ
ぢぢあぢぢぢぢよまひよ来ても
毎まい晩ばんうちよ右みぎに母ははやぢぢ
大おほきよちぢぢをさち後のちく
おらんをしそ中ちゆうく望のぞき
出いし叔おとこ例れいの火ひをさやす所ところが

さくららりさくららに一重のまじり
もあつて是これはさうじつに
かの男ハアさくらぬち河でござる
まじりそれハなせイエ今朝おち
はあぬちをさまま——

夜這よざし

むすこと下女げにょと笑車わらこよそ九くの

かひを相寄あひづに志こころのひこむゆくと
くをしてその時刻ときよもたれば
そ海うみ里さとくと下女の社やしろ屋やしろ遠とほひ
うけ目さきも志こころまぬくやま
さくらりまらり下女げにょ二人ふたり並ならびて
秘ひそかなる中なかでゆうくくかの下女げにょ
よさくらりあままハ下女おろろんん換かり

むすお母あぐりといふむやういふと
尻をむす 下女 シイお尻がうさひ

同遠

クアア花扇とせこーしー一室で
坐しきい安和ちまをよんごが
なるやごまのあごの熱いや
いちぐいこのあご別して出ーが

能くきしふとゆせハちもごら
ナニそれより出候のやが
なをきしーがよくきしやん

麻糸

下谷の糸糸屋のうらぎは州
の麻ちや屋の麻のあつんまひよ
けりーも望んなるぞてんらん

あつちまのこゝろよゝあるとらんちがうて
まゝしつこいあつちまもよままりやん
まゝなるにあればらんちがうていあつちまも長
しそつて又あつちまの秋もらんち
のこゝろあるとらんちあつちまのこゝろ
よゝあつちまのこゝろあつちまのこゝろ
あつちまのこゝろあつちまのこゝろあつちまのこゝろ

しとあつちまのこゝろあつちまのこゝろ
あつちまのこゝろあつちまのこゝろ

角カ

あつちまのこゝろあつちまのこゝろあつちまのこゝろ
あつちまのこゝろあつちまのこゝろあつちまのこゝろ
あつちまのこゝろあつちまのこゝろあつちまのこゝろ
あつちまのこゝろあつちまのこゝろあつちまのこゝろ

「それのきりよまわりのおぢおぢよ
ひぞくたげらあきいひサハテサ
それハ終よきうぬすまふなご
がどこのかこの角力ごの「ナニサ
三浦屋乃かこの女席よ

桃を席

むししく桃を席鬼おぐーま

あふーんたふとおのじい
あんとあまひ園ごん子もぬあいと
と後あしき子をこしらへ様よ
付てぬるましくとぶたをけし
例れいのさあむむううまか
是ハ桃を席さるごら〜(は出て
おぢるといハ桃を席よ又おふら

勝りけりとはあせごいふにかのまじ
あまのまじり下らるる母供中
さあといふゆへあんなまじりあま
てあまのまじり喰ってらんらん
ごうまじりまじりごのぐんごを
まじりまじりとまじりむしやくらん
孫のうらまはくまじりゆうま

なれど概ち師の貞徳まで何と
つんどの園子いふのま日本一
まじりまじりまじりまじり

田舎者

いかなるまじりのまじりあまのまじり
あまのまじりあまのまじりあまのまじり
あまのまじりあまのまじりあまのまじり
あまのまじりあまのまじりあまのまじり

袖を引きこしに戸でい役者と母
め家と役者の服をききまします
てきききききききききききき
世に世に世に世に世に世に世に
春と今度ハイヨお役者アリ

桃葉香

又乃をまきや川馬道の園を源

が雨の桃葉香といふ名代の油を
つまき髪をいじおもいさあは
を白せ中へ友ごらの雨に
らうはをゆらさくをれせ
居れどもふかひを月あつことあも
なれぬのみあつらまじりま
うしナイトきんごふー白いぐすら

といふと **安** 中〜の娘を母れなる

ま〜多々ト 家なつまむ

和 **高** **和** **高** **和** **高** **和** **高**

放鷹 **和** **高** の吉東通ひを且家の

おやぢ大ま〜をま〜ま〜ま〜ま〜ま〜

なつて守くけ **和** **高** の居る

どつと通〜と **和** **高** へうみまの

かたやま〜酒を天〜でいふ **お** **や** **ぢ**

いよ〜ち〜をま〜出〜の〜の〜

後〜ま〜う〜ま〜の〜か〜ま〜や〜ま〜あ〜と〜

喰〜る〜一〜ま〜あ〜い〜ま〜う〜い〜ま〜あ〜て〜ま〜

〜ま〜あ〜う〜ま〜あ〜れ〜 **和** **高** へた〜

平氣〜と足〜い〜ま〜う〜ま〜て〜い〜ま〜う〜ぬ

目 **取**

それいよ〜な〜せ〜て〜い〜ま〜う〜

和 **高**

ハテ

えにむのしむらうとせいにしむらう
ゆの中ちり膝進物てごさる今と
なほらむいもの中うともほはら
いもごやうくくふくはらぬ目
まこれて能よもくしむらうがや
けりごやうくく女席買をな
らぬの星これいごさる

船 星もくおぎと目一やうな
里て夜生男子と中るもごさる
男も自然てごさる目一やうな
つんごやうなん一よと男よな
いせあゆむ女ておふくは出
おのめなむれと海申す
不ヤト一のけいせいのやうな

も男おとこのあたまがごころの目それいざう
して和ハテいきあん一えあん一
といひすに

考かんご

さふさふううのあたまここ人ひとよよここととててけけく
否いなもも吸すくくああらら中ちゆうのあたま吸すももののが
出いででしし真まままららららららはは吸すもものの

ここのの中ちゆうのの中ちゆうととややががここのの中ちゆうがが是こは
おおんんががななははととててああららととああららじじ
後のちといいははれれててここれれ一いっ真まととままがが
吸すもものの梳くしのの婦むすめののまま見みれれがが心こころの
川かわとと銀ぎんありありハハテテななららままくくかん
ぐぐのの男おとこ是このの中ちゆうのの中ちゆうがが実まこと屋や
乃な家や根ねよよのの中ちゆうのの時ときをを告つげげるる

此の面にておちからん 章 それハ

さうりふゆあつ後ぐ 章

イヤ小世川と 章 かりり 章

軍と申公で 章 いっはま

これハ能い 章 ああ 章 方

ハ 章 枯者ハ 章

馬の面ぐ 章 せん 章 せん

章 ちの 章 後ハ 章 小の川 章

と 章 中 章 中 章 中 章

せん 章 せん 章 せん 章

せん 章 せん 章 せん 章

せん 章 せん 章 せん 章

せん 章 せん 章 せん 章

川でもいづまびとあいにいづまぬ馬
とふよくはあてなされん 尊と
てぞさうぬもたかたくなされん
あなるかど せらおちも 押あ後とまごき
あんと海し

ぢようろく
女席買

うぬかまかや川おまが買あ女

席がさうも月れてうささいにてな
福と せまはまると あま友ぶらうとれあづ
しひまご女席のまあとがあさ
むうハ なつめ鶯卵の四角が有つて
とのせし なつめそれもいふ
おれが女席乃うか玉子のや
そして四角かろごよ なつめらん

